

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	野上 栄美子 【理学専攻 平成25年度生】	<p>本論文では、ペルフルオロアルキル基を有する芳香族化合物の合成に関する研究について述べられている。光ペルフルオロアルキル化反応を用いて、種々の含フッ素化合物の合成法を確立し、これまで合成が困難とされたきた新規含フッ素芳香族化合物の合成を達成した。また、その構造上の特徴を明らかとし、今後の新規医薬品、機能性材料の分子デザインの指針となる結果を得た。</p> <p>本論文の内容の一部は、有機化学の国際誌に掲載されたほか、国内外の当該分野の学会で発表されている。</p> <p>これらの研究成果をふまえて、以下の日程で 4 回に渡って学位論文の審査を実施した。</p> <p>第一回は、平成 27 年 12 月 22 日に開催した。提出された論文の内容、構成についての確認が行われ、第二回以降の審査方法について審査委員の間での合意をとった。</p> <p>第二回は平成 28 年 1 月 7 日に開催した。申請者による 1 時間程度の研究内容の説明の後、質疑応答を行い、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。</p> <p>第三回は平成 28 年 2 月 5 日に開催し、修正された論文の内容の説明を申請者から受け、検討、議論し十分に改善されていることを確認し、次回を公開発表会とすることが認められた。</p> <p>公開発表会は平成 28 年 2 月 24 日に開催し、申請者より論文内容に基づく発表、質疑応答がなされた。</p> <p>第四回は公開発表会後に行われ、発表会における質疑応答および、論文内容の最終確認を行った。</p> <p>これらの審査段階を経た結果より、本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の博士（理学）(Ph. D. in Chemistry) の学位を受けるに相応しいと判断した。</p>
論文題目	芳香族化合物の光ペルフルオロアルキル化反応による含フッ素化合物の合成とその構造	
審査委員	(主査) 准教授 矢島 知子	
	教授 山田 眞二	
	教授 益田 祐一	
	教授 近藤 敏啓	
	准教授 棚谷 綾	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">s 2 4 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	